

バイオサイエンス学科 学会発表

【発表者について】アンダーラインは本学教員、研究員および技術職員、○は発表者、※は大学院生、卒研生または卒業生

学会名	生命科学系学会合同年次大会 (ConBio2017)
演題名	SHANK3から見た自閉スペクトラム症の神経病態の解明と克服に向けて
発表者	○内野茂夫 【神経生物学研究室 (内野研究室)】
内容	<p>平成29年12月6日、生命科学系学会合同年次大会 (ConBio2017) (於: 神戸ポートアイランド) において、内野が内匠先生 (理化学研究所脳科学総合研究センター) とともに「病態モデル動物からアプローチする発達障害の分子病態理解」と題するワークショップを企画・開催した。本大会は、日本分子生物学会、日本生化学会を中心に海外・国内およそ40の学会・団体が協賛した非常に大きな大会であった。本ワークショップでは、本学平澤孝枝講師を含む若手の研究者を中心に、遺伝子改変技術を用いて作出した発達障害の病態モデル動物 (マウスと霊長類 (マーモセット)) に関する最新の知見を発表していただいた。さらに、女性医師 (齊藤講師) から大学病院の臨床の最前線の現状について発表をいただいた。</p> <p>内野は、研究室が保有するShank3のノックアウトマウス (自閉スペクトラム症病態モデルマウス) および発現モニターマウスを用いた最近の大学院生・卒研生の研究成果を発表するとともに、自閉スペクトラム症の新たな治療戦略を提唱した。なお、本学会には内野研の博士研究員2人、大学院生1人、卒研生6人が参加した。</p>
関連画像	